



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2025

11月28日 号

209
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

副会長就任にあたっての抱負



副会長 菅野修一

本年5月に開催されました福島県診療放射線技師会定期総会におきまして、副会長を拝命しました菅野修一と申します。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

まずは自己紹介をさせていただきます。田村市都路町（旧田村郡都路村）出身で、平成6年3月に群馬県立福祉大学校 放射線学科（現在の群馬県立県民健康科学大学の前身にあたる学校）を卒業し、同年4月に都路村診療所（現在の田村市立都路診療所）採用となりました。採用後すぐに郡山市内の総合病院で2か月間研修を受け、その後、本格的に都路村診療所で業務を始めました。当時は自動現像機でフィルムを現像する環境でしたので、フィルム濃度や現像液などの管理には苦労していました。また、モダリティは一般撮影装置と透視装置、CT装置、超音波装置などでしたが、すべての装置を一人で担当していました。現在はフィルムレス化が完了し、業務がスムーズに進められていると思っています。

ここからは福島県診療放射線技師会での役割について説明します。副会長に就任する以前は、県技師会理事と県南地区協議会副委員長を務め、県南地区協議会の財務担当も3期6年務めました。県技師会の理事に就任した際、災害対策委員長を拝命し、主に福島県原子力防災訓練実施に深く関わるようになりました。県の原子力防災訓練には平成12年ごろから参加するようになりました、関心が次第に高まっていました。放射線管理士の役割にも原子力災害や被ばく医療にかかわることが示されています。特に福島県民は東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故により、様々な苦労を経験しています。原子力災害時の活動に限らず、災害のあとの活動にも注力でき診療放射線技師会を目指して、役員及び会員の皆様とともに邁進して参ります。

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 山尾 天翔

会員の皆様、こんにちは。私は2024年10月から2025年9月までの1年間、ドイツのユリウス・マクシミリアン大学ヴュルツブルク（ヴュルツブルク大学）のTakahiro Higuchi教授のもとで留学する機会を得ました。本稿では、私が留学を通して得た経験が、会員の皆様の海外留学への挑戦の一助となれば幸いです。

ヴュルツブルク大学はバイエルン州ヴュルツブルクに位置する、ドイツで4番目に長い歴史を有する大学です。X線を発見したヴィルヘルム・レントゲン博士をはじめ、これまでに14名のノーベル賞受賞者を輩出しています。福島県立医科大学においてHiguchi教授の特別講演が開催された際、海外留学を希望している旨を直接お伝えしたところ、快く受け入れを許可していただき、今回の留学の機会につながりました。Higuchi教授のラボでは、これまでに数多くの留学生を受け入れており、日本人研究者も所属しています。

ドイツでは前立腺がんに対する標的核医学治療が広く行われており、ヴュルツブルク大学でも多数の治療実績があります。私は、⁶⁸Ga-PSMA PETにおける深層学習を用いたコンピュータ支援診断システムの開発や、腎臓に対するダイナミック3D PET画像の自動定量解析ソフトウェアの開発に取り組みました。Higuchi教授のラボには、放射線生物学、放射線化学、放射線医学など多様なバックグラウンドを有する研究者が所属しており、創薬から臨床応用までを一貫して完結できる研究体制が構築されていました。私はコンピュータサイエンスの専門性を活かし、小動物PET/SPECTの撮像、画像再構成、画像処理に携わりました。留学開始直後の2週間は、生活環境の構築に多くの時間を費やしました。市役所での居住登録手続きや銀行口座の開設では、英語での案内がない場合が多く、翻訳ツールが欠かせませんでした。生活面だけでなく、研究の立ち上げにおいてもラボメンバーの支援は不可欠でした。特に画像解析を専門とする研究者がいなかつたため、研究方針や実装の判断についてはHiguchi教授と密に相談しながら進めていきました。

ドイツといえばビールとソーセージを想像される方も多いと思いますが、ヴュルツブルクはビールよりもワイン（特に白ワイン）の産地として知られています。アルテマイン川に架かる旧マイン橋では、夕方の早い時間から多くの市民がワインを片手に談笑している風景が見られました。週末にはヴュルツブルク近郊の都市だけでなく、オーストリアやイタリアなどの周辺国も訪れることができました。ヨーロッパの美しい街並みや歴史的建造物を巡ることで、その地域の文化や歴史を肌で感じ、見聞を広げることができました。

本留学は研究面・生活面の双方において大きな学びと経験を得る機会となりました。特に、異なる文化圏における研究プロジェクトの進め方や役割分担の考え方を知ることができ

きたのは、研究の実践性をより高める上で大きな刺激となりました。また、多様なバックグラウンドを有する研究者との議論を通じて、研究手法だけでなく、研究者としての姿勢や価値観について多くの気づきを得ることができました。今後は、この留学で得られた知識や視点を学生教育に還元するとともに、国際共同研究に参画することで、診療放射線技術の発展に貢献していきたいと考えています。今回の貴重な機会をいただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



Fig. 1 研究センターの外観



Fig. 2 オフィスの風景



Fig. 3 ヴュルツブルクのレジデンツ

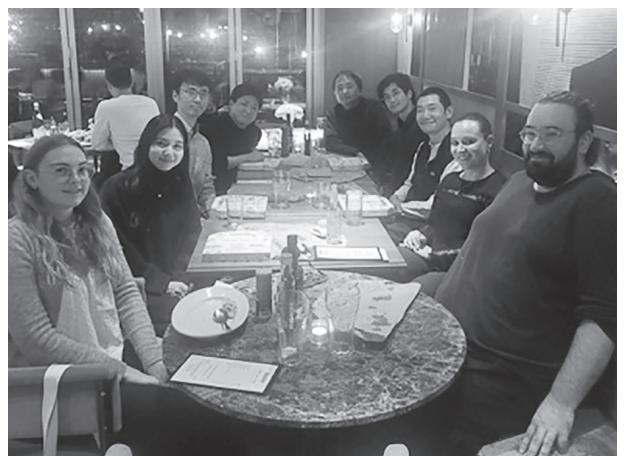


Fig. 4 ラボメンバーとの送別会（左側最奥が筆者）

～県会長「オンレコ」～

会長 鈴木 雅博

①9月12日（金）から14日（日）の3日間、福井駅前のAOSSAを中心に日本診療放射線技師会学術大会が開催されました。情報交換会は、駅前の福井市にぎわい交流施設ハピテラス（屋根付き広場）と屋外で行われ、当会からも日本酒（玄宰：末廣酒造）を提供し盛況のなか交流を深めることができました。来年度は、9月11日（金）から13日（日）の3日間、山形国際交流プラザ 山形ビックウイングで開催されます。

②9月20日（土）に福島県立医科大学駅前キャンパスにて第1回 福島医療放射線計測・防護研究会が開催されました。学保健科学部診療放射線科学科の卒業生・在校生からレベルの高い発表があり、計測防護の基礎となる大変有意義な研究会でしたので、次年度以降、多くの会員が参加して頂ければと思います。

③10月11日（土）12日（日）の2日間、リンクステーションホール青森にて第15回 東北放射線医療技術学術大会（TCRT2025）が開催されました。こちらにも当会からも日本酒（泉川：廣木酒造・会津娘：高橋庄作酒造）を提供しました。演題採択に関して、倫理に関して確認が必要な演題が多かったと報告がありました。倫理に関して技術学会が掲載しているQ&Aを参照して頂ければと思います。TCRT2026は、10月3日（土）4日（日）キオクシア アイーナ（岩手県）となっています。

④10月26日（日）に星総合病院ポラリス保健看護学院メグレズホールにて令和7年度公益社団法人福島県診療放射線技師学術大会が開催されました。本大会の開催

にあたり、多大なるご支援とご協力をいただいた関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。また、貴重な研究成果を発表いただきました演者の皆様、運営に携わってくださった学術委員の皆様に厚く御礼申し上げます。

⑤公益法人制度の改正を踏まえ、今後の制度運用や改善に向けて政策提言に反映させるべく（公財）公益法人協会の「公益法人の運営等に関するアンケート」を新里事務局長に回答して頂きました。

⑥Web会議やWeb研修などで使用するアプリケーション「Webex」ライセンス更新しました。必要時にご活用下さい。

⑦国民医療推進協議会では、医療を守る関係各位の総意をより力強く中央に伝えていくことが重要との主旨で、11月20日（木）に「国民の医療を守る総決起大会」を全国1万人規模で開催します。当会からも役員数名でサテライト会場（福島県医師会館）にて参加予定です。

⑧10月20日（月）に研修管理ツール「manaable」の説明を受けました。

⑨JARTより除籍会員の未収年会費の回収業務の委託先としてNTS総合弁護士法人を新たに選定したと連絡がありました。債権回収の対象範囲を従来の「会員資格喪失（除籍）者」に加え、「年会費未納による退会者」も新たに対象に加えることが決定されております。

⑩次年度の告示研修は東京・大阪で年12回開催を計画しているとのことです。

地 区 だ よ り

県 北 地 区

「第25回県北MDCTカンファレンス」開催

令和7年9月27日（土）福島テルサ3F「あぶくま」にて開催されました。参加総数は41名でした。

ブラック・ジャパン株式会社様より製品紹介があり、その後に3セッションに分かれ、基礎講演、実験企画テーマ発表、特別講演の順で行われました。

最初に、基礎講演として福島赤十字病院の玉根先生より「CTにおける空間分解能」について講演していただきました。空間分解能をより具体的にイメージできるよう、解説が行われました。

次に実験企画として「空間分解能を測定してみよう」というテーマで発表がありました。

「ImageJとExcelを使ったワイヤ法によるMTF解析について」福島県立医科大学附属病院の亀井先生より解析法の説明をしていただきました。「ワイヤ法による測定」については、済生会福島総合病院の佐藤先生、公立藤田総合病院の菅野先生、福島赤十字病院の島田先生の3名の発表と、「円形エッジ法による測定」については、医療

生協わたり病院の岩崎先生、大原総合病院の千葉先生、済生会福島総合病院の渡邊先生で、こちらも3名の発表がありました。自作ファントムを用いた各施設での空間分解能測定が紹介され、CTの特性理解を深める内容となりました。

特別講演として、済生会福島総合病院、橋本先生より「X線CT50年、県北MDCT25年、CT従事者の現状として」と題した講演がありました。CT装置の発展とともに画像技術がどのように変遷してきたかを振り返り、現在、CT従事者に求められる役割や姿勢について示唆に富む内容でした。

参加者全員が熱心に耳を傾けていました。次回は令和8年9月の開催を予定しています。

(阿部)



県 南 地 区

「ピンクリボンin郡山 2025」開催

令和7年10月18日「ピンクリボンin郡山2025」が（公財）星総合病院メグレズホールにて開催されました。

対面とオンラインのハイブリット形式で開催し、約220名の方に参加頂きました。

参加会員は、星総合病院から3名、土屋病院、寿泉堂総合病院からそれぞれ1名の計5名。

今回、放射線技師会以外にも16の団体・企業の出展ブースがあり来場された方にはスタンプラリー形式で各ブースを見て回って頂きました。

①活動内容

- ・マンモグラフィに関するパネル展示。
- ・触診ファントムを用いて乳腺内の腫瘍の感触を確認して頂き、自己触診の際に役立ててもらえるよう呼びかけました。
- ・昨年同様、超音波装置を用いて“フルーツインゼリー”をスキャンし超音波画像での見え方と一緒に確認したり、実際にプローブを操作してもらい検査の手技を体験したりしながら、マンモグラフィと超音波それぞれの特性を説明し理解して頂き有意義な時間となりました。



技師会ブースにて
左から本田・渡辺・国嶋・國分・伊藤（敬称略）

また、当日技師会ブースに立ち寄った方に、以前に技師会にて作成した名入りのクリアファイルとポケットティッシュを配布

し、乳がん啓発を呼びかけました。

②乳がん検査機器見学ツアー

当日参加希望して頂いた方と乳腺外科の医師、放射線技師とで星総合病院マンモグラフィ撮影室、乳腺外科診察室、乳腺エコー室を見て回り、普段はなかなか出来ないような質問や不安に感じている事など随時相談に応じながらツアーを行いました。

実際には参加者が少なかったので、次回以降受付での呼びかけや案内等工夫していく必要があると感じました。

③相談コーナー

来場された方が気軽に相談できるコーナーを設け、認定看護師や遺伝カウンセラーと共に相談内容に応じた職種が対応を行いました。

市内の乳がん専門医が中心となって、2009年に[ピンクリボンin郡山]実行委員会が設立しました。

技師会としても当イベントに参加し、乳がん検診啓発活動を継続的に行っていければと思います。

（星総合病院 黒岩堂瑞穂）

編 集 後 記

早いもので2025年も残すところ1ヶ月。今年も国内外で様々な出来事がありました。令和の米騒動、女性初の首相誕生、ドジャースの優勝など。そんな中、私が一番注目したのが、日本各地での熊出没のニュースです。私の職場である磐梯熱海でも目撃情報は後を絶たず、ついに病棟の窓からも熊の姿が目撃され、全職員に厳戒態勢が敷かれました。もう、「くまつたな～」と冗談が言える状態ではなくなってしまいました。

これから本格的な冬を迎えます。熊さんは本来の生活圏である山へ帰り、静かに眠ってくれることを切に願ってやみません。

（関根）